

2021年度上半期 豊岡市障害者自立支援協議会「しごと部会」報告資料

メンバー	<p>部会長：宮下 典子（NPO法人セルフサポートいずし 理事長） 副部会長：西村 弘文（NPO法人サポート欽 理事長） 部会員：佐藤 杏南（豊岡市障害者基幹相談支援センター）、岡森 吉彦（豊岡市社会福祉課 就労支援員）、岡本 優嗣（豊岡市社会福祉課）</p>
------	--

会議	1回(7/27)、2回(8/23)
----	-------------------

期	現状と課題	今年度の方針	部会での取組	見えてきたこと	下半期の取組方針
上半期	<p>■新型コロナウイルスの影響により、障害福祉サービス事業所の作業減少による利用者の工賃減少や活動縮小につながっている。</p>	<p>■多様な働き方を推進する。</p>	<p>■農福連携の推進 昨年度に引き続き、市農林水産課と連携し、農業者と就労系障害福祉サービス事業所のマッチングを行った。</p> <p>件数：2件 内容：ピーマンの収穫作業、播種作業</p> <p>■短時間雇用の推進 新型コロナウイルスの影響により、取り組めていない。</p>	<p>■農業者によって単価が異なったり、農作業の内容によって単価が異なるなど、障害福祉サービス事業所が取り組みにくい。</p>	<p>■単価や相場設定についての検討会を開催する。</p> <p>■農福連携の情報について、SNSを活用して、障害福祉サービス事業所へ周知する。</p>

2021年度上半期 豊岡市障害者自立支援協議会「せいかつ部会」報告資料

メンバー	部会長：山本 直（基幹相談支援センター 課長補佐） 事務局：梶原 博和（豊岡市社会福祉課） 部会長：木村 尚子（一般社団法人暮らしの学校 農楽 代表理事）、谷 友紀子（生活支援センターほおずき 施設長） 増田 浩平（NPO法人でかけ隊 代表）
------	--

会議	1回(4/13)、2回(6/18)、3回(7/27)、 4回(9/24)
----	---

期	現状と課題	今年度の方針	部会での取組	見えてきたこと	下半期の取組方針
上半期	<ul style="list-style-type: none"> 医療機関受診に支援が必要な場合、家族が対応できない事が増えている。 家族に代わって院内介助を行う支援サービスがない。 ヘルパーによる「通院等介助」「通院等乗降介助」は、自宅での受診準備から医療機関まで送るまでの支援だが、事情を鑑み特例的に院内介助を認めているケースはある。しかし、ヘルパー事業所としては対応が困難な事が多い。 現状は、サービス事業所の支援員や相談支援事業所の相談員が対応せざるをえないことも少なくない。 	<ul style="list-style-type: none"> 医療機関受診にかかる支援 人材不足解消の方策について検討する。 	<p>【医療機関の職員による介助の実情の聞き取り】 日 時：令和3年3月3日 電話確認：豊岡病院における院内介助のあり方と課題について聞き取りを行った。</p> <p>【受診に係る支援の実態調査】 期 間：令和3年6月7日～6月17日</p> <p>調査対象：相談支援事業所、就労継続支援事業所、共同生活援助、地域活動支援センター、居宅介護事業所の3法人</p> <p>内 容：令和3年3月～5月の間の受診の同行での回数等の内容等について調査を行った。</p>	<p>【医療機関の職員による介助の実情の聞き取り】</p> <ul style="list-style-type: none"> 院内介助を対応したいが、マンパワー不足でできない。 <p>【受診に係る支援の実態調査】</p> <ul style="list-style-type: none"> 共同生活援助、相談支援事業所の支援実績が多い。 受診支援が必要な方は、年間に換算すると1000件程度で9割が定期受診。 支援内容については、身体的な介助は少なく、コミュニケーション支援と移動支援が多い。 支援内容については、「医師への状況説明」が一番多かった。 受診は、精神科が4割を占めており支援区分はさまざま。 区分が低ければ支援者の負担が少ないとは限らない。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 病院送迎は、事業所がボランティアで行っているため、事故時の責任の所在が明確でなく、リスクを抱えながら行われている。 介護保険制度では、今年度からケアマネの通院同行の加算が創設されたが、相談支援専門員はない。 市の移動支援制度は始点終点が自宅のため利用しにくい。 調査による支援内容の結果から、「医師への状況説明が困難と思う」が一番多い事から、本人の体調や変化を医師に伝えられるような事が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 本人の情報が共有できるよう、よく聞かれる項目などを整理した様式（体調報告書）を各事業所へ配布。 送迎に伴うリスクマネジメントについて各事業所に注意喚起を行う。 院内のガイドヘルパーの人材育成について検討 相談支援専門員の行う通院同行の加算を、使いやすい形での加算として県に要望。 病院送迎、院内付き添い等の受診に係る全体的な支援の検討と提言のまとめ

2021年度上半期 豊岡市障害者自立支援協議会「こども部会」報告資料

メンバー	<p>部会長：福田 寛子（豊岡市健康増進課 およこ支援室） 副部会長：稲津 慎也（北但広域療育センター 支援課長） 部会員：時 沙菜（障害者基幹相談支援センター）、島田真弓（出石精和園ほけっと）、大野 直人（そらまめはうす）、古川 晴次（ひみつきち）、西村 尚司・辻井 亜紀（ことぶき苑相談支援事業所）、岡本 優嗣・細見 貴誠（豊岡市社会福祉課）</p>
------	---

会議	1回（7/19）、2回（9/17）
----	-------------------

期	現状と課題	今年度の方針	部会での取組	見えてきたこと	下半期の取組方針
上半期	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの成長や発達に悩みのある保護者が孤立しないよう、またその悩みや不安感を軽減することができるような保護者同士のつながりの場が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者同士の横のつながりを広め深める場として「お話カフェ」を年間3回、開催する。 	<p>お話カフェ 9月27日（月）立野庁舎 参加者7名 スタッフ7名 内容：豊岡市の福祉サービスについて、座談会 11月19日（金）らみい 1月12日（水）立野庁舎</p>	<ul style="list-style-type: none"> 教育と福祉、保健との連携がうまくいっていない。 就学や進学、就労についての情報をもっと知りたい。 就労に必要なロードマップがあると、子供に何をさせる必要があるか見通しがつく。 小学校までは、手厚い支援を受けられるが、中学校以降が心配である。 	<p>こども部会に教育関係者も参加してもらおう。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> 事業所間・相談員間での情報共有や連携が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童に係る事業所間の情報交換会を実施する。 	<p>情報交換会 日程：調整中 令和4年1月27日（木）予定 内容：各事業所の特徴を発表、関係機関との連携等の困りごとについてグループワーク</p>		
	<ul style="list-style-type: none"> 児童発達利用者に相談員がつくことができず、セルフプランとなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> セルフプランの方が、事業所を選択しやすくなるような冊子を作成する。 	<ul style="list-style-type: none"> 各事業に、PRのため、資料作成を依頼済。 	<ul style="list-style-type: none"> 新規の方の相談を受け入れていない。 児童の新規利用者は、セルフプランとなっており、事業所を選択する材料がない。 空き状況がわからず、電話をかける負担感がある。 	